

科目名	教育的ケアリング特論		副題		
担当者	生田久美子				
開講期	後期	単位数	2単位	配当年次	1・2年次
授業の概要	本講義では、教育の文脈における「ケアリング」の概念を議論することの意義を考察し、それが「人間の学びとは何か」「人間の教えるとは何か」という問題に新たな視点を提供することについて考える。 上記の目的のために、学校における「ケアリング」の重要性について論じているジェーン・ローランド・マーチン著『スクールホーム―ケア>する学校』、またネル・ノディングズの『ケアリング』を輪読する。				
授業のねらい・到達目標	1. 教育における「ケアリング」概念を理解する。 2. 学校教育における具体的な「ケアリング」の実践例を分析する。 3. 教育における「ケアリング」の意義を理解した上で、新たな教育像および教員像を構築する。				
授業の方法・授業計画					
1	教育における「ケアリング」とは何か				
2	学校教育における「ケアリング」の実践事例を考える				
3	『スクールホーム』の輪読(1)家庭と学校				
4	『スクールホーム』の輪読(2)文化とカリキュラム				
5	『スクールホーム』の輪読(3)生きることへの学び				
6	『スクールホーム』の輪読(4)抑圧された家庭生活				
7	『スクールホーム』の輪読(5)家庭と世界				
8	『スクールホーム』の総括				
9	『ケアリング』の輪読(1)なぜケアリングにかかわるのか				
10	『ケアリング』の輪読(2)ケアするひと				
11	『ケアリング』の輪読(3)ケアされるひと				
12	『ケアリング』の輪読(4)ケアリングの倫理				
13	『ケアリング』の総括				
14	「ケアリング」論から考える教育像・教員像				
15	まとめ				
期末	試験なし				
授業に関する補足説明(課題に対するフィードバック、履修上のルール等)	本授業では、学術書を履修生全員で読み込み、各回担当の履修生がレジュメ作成を担当し、発表することを課する。その際、概念、理論などを理解した上で、レジュメ作成および発表をすること。				
評価方法及び評価基準	授業内で提出する小レポート（25%）・発表等（25%）・最終レポート（50%）を基にして評価する。				
事前・事後学習の内容	予定されている内容に該当する教科書の章を事前に読んでおくこと。 授業の内容を必ず復習すること。				
履修上の注意	問題意識をもって、授業内の議論に積極的に参加すること。				
テキスト	J. R. マーティン 生田久美子監訳『スクールホーム―ケア>する学校』、東京大学出版会、2007年 N. ノディングス 立山善康他訳『ケアリング 倫理と道徳の教育―女性の観点から』、晃洋書房、1997年				
参考文献	N. ノディングス 山崎洋子・菱刈晃夫訳『幸せのための教育』、知泉書館、2008年 N. ノディングス 佐藤学訳『学校におけるケアの挑戦―もう一つの教育を求めて』、ゆみる出版、2007年 佐伯胖編著『「子どもがケアする世界」をケアする:保育における「二人称的アプローチ」入門』、ミネルヴァ書房、2017年				